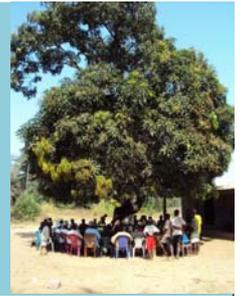


プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「小さいけれど大きな一歩」号 2011年7月28日 (Vol.19)



はじめに

1. 離任にあたり 吉野専門家
2. 着任の挨拶 田中専門家
3. 現場活動の実況中継
 - 3.1 小さいけれど大きな一歩
 - 3.2 愛すべき 名物広報官
4. プロジェクトの進捗報告
 - 4.1 モデルワードプロジェクト準備
 - 4.2 研修計画
 - 4.3 フィーダー道路改修工事 竣工式
5. コラム：シエラのチカラ –
 - 5.1 只今トンネル建設中！？
 - 5.2 おいしい料理に魚の骨あり
6. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第14話



シエラレオネ



プロジェクト対象県

*プロジェクト HP にもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

はじめに

本プロジェクトでは、地方行政自身と地方行政と住民をつなぐ住民代表グループ（ワード委員会）がより効果的な開発事業を管理できる能力の強化を図っています。能力強化は一日では成し遂げられません。かといって、あまりに高すぎるハードルを設定しても、未消化で終わってしまう可能性が高まります。

「昨日できなかったことが今日は出来るようになった。」そんなひとつひとつの感動をシエラレオネの地方行政の関係者や住民代表者と共有するために、プロジェクト専門家は小さなことからコツコツと助言・指導しています。



バームヤシの実を運ぶ男子

地方行政や住民代表グループの能力向上を図るために、本プロジェクトでは具体的な事業支援を通じてその能力向上を図っています。事業のニーズは住民代表者と地方行政が協働して把握し、計画を策定します。

これまでに地方行政と住民の尽力により、本プロジェクトで協力して多くの事業が完了し、地域の社会経済活動の改善に貢献しています。フィーダー道路改修工事もそのひとつです。プロジェクト専門家の助言・指導があり、地方行政、地元住民や施工業者の大いなる尽力により、4工事契約のうち、3つの工事が完了しました。残りの工事も関係者の尽力により、完工が近づいています。

6月から順次、フィーダー道路改修工事の竣工式及び引渡し式が地元で行われております。同式典には本省から大臣及び副大臣、県の要人、多くの住民が出席する中、「3月の日本における巨大地震の被災者の皆さんに心からお見舞い申し上げます。多くの方々が被災したにもかかわらず、JICAはシエラレオネへの協力を継続してくれて心から感謝したい。私たちの生活はまだ多くの問題を抱えているが、日本を手本にして、一つ一つ着実に開発を進めていきたい。」との言葉を数多く頂いています。

地道な協力が実を結ぶ。そして相手国の皆さんにその“思い”が伝わり、将来も相互に助け合うことが出来るとういんですね。本プロジェクトも日本とシエラレオネ相互の信頼関係や協力関係の強化に貢献できるよう、プロジェクト専門家一同日々精進していく所存です。

(平林リーダー)



フィーダー道路改修工事竣工式典で道路の完成を喜ぶ地元住民



フィーダー道路改修工事竣工式典出席者。地元住民の喜びも大きい

ニュース 1：離任にあたり —吉野専門家—

2010年4月末～2011年7月下旬までの約1年4ヶ月、業務調整/研修計画/村落開発専門家として本プロジェクトにて活動をさせていただきました。

専門家として、本プロジェクトが初のJICAプロジェクト業務経験となりました。本プロジェクトでは3つの事務所、2つの宿舍の管理を行う必要があったのですが、各事務所に常駐するJICA専門家及び現地スタッフの連絡手段の確保と情報共有が非常に重要な業務内容となっておりました。

幸い通信速度は遅いものの、衛星インターネットやUSBモバイルインターネットの利用が可能であったため、メールを中心としてインターネット経由での情報共有が可能であり、「情報共有不足によるプロジェクト運営の停滞」は回避できていたと思われまます。

一連のパイロットプロジェクトが終了した本プロジェクトは、今後は「モデルワードプロジェクト」「フィーダー道路改修プロジェクト」の2つの事業を基軸にして、県議会及びワード委員会の能力開発の本格的な段階へと進むこととなります。プロジェクトが本格的な段階に入るにあたり、情報共有は更に重要な概念になってきます。今後も情報共有の重要性をカウンターパートである県議会やワード委員会に認識してもらうとともに、その方法論を本プロジェクトを手本としてカウンターパートへ伝えていければと思います。



現場を視察する吉野専門家（写真中央）

短い間ではありましたが、貴重な経験をさせていただいた本プロジェクト関係者の皆様に心より感謝いたします。また、今回の活動期間中、絶大なサポートをいただいた平林リーダーとご家族へも心より感謝いたします。また別の形で本プロジェクトに係わる機会があれば、是非とも協力をさせていただきたいと存じます。

吉野専門家（業務調整/研修計画/村落開発）

ニュース 2：着任の挨拶 ー田中専門家ー

7月10日午後、AF774便にて隣国ギニアの首都コナクリを經由し、シエラレオネの土を生まれて初めて踏みました。コナクリで大多数の乗客が降りて行く様子を見て、かつて政治経済的に大いに低迷するガーナに赴任した時の記憶が蘇りました。あの時もナイジェリアのラゴス空港でほとんどの乗客が降りてしまい、ガラんとした機内を見て心細く感じたものです。シエラレオネもかつてのガーナと同様に大勢の人たちが目指すような国ではないのだろうと。。。

さて、赴任して2週間余りとなりましたが、現地で生活してみて正直ほっとしています。

まず、シエラレオネの人々がおおらかであり、朗らかであることに感銘を受けました。職場の方々をはじめ、出会う多くの方々のホスピタリティーを感じます。これは非常にありがたいことです。

活動の舞台は地方です。2つの県議会と協働して村落の開発を目指します。協働のパートナーには「やってみせる」から「主体的に取り組むように働きかける」ステージへ移行しつつあります。「主体的に取り組むように働きかける」とはどういうことなのか？故ニエレタンザニア大統領の自主独立に関する言葉があります。すなわち Self independence に関して誰も教えることができない、自分で学ぶしかないのだと。



地方で活動する田中専門家（写真左）

私自身はプロジェクトを通じ、人々から学び取る姿勢だけは忘れぬよう、与えられた二年間の任務を全うしたいと思います。

田中専門家（業務調整）

ニュース 3 現場活動の実況中継

3.1 県議会の小さいけれど大きな一歩

7月初旬に離任されたフィーダー道路担当 宿谷専門家からの宿題に、「8月中旬頃までを目処に、県議会による次期フィーダー道路工事候補地の下見作業をモニタリングする」というものがありました。

昨年の県議会の状況では、JICA プロジェクト専門家が不在期間中に自主的に道路工事候補地の下見を行うことは到底不可能であると思われました。

しかし今回は、県議会職員のエンジニアを中心に、**県議会が主体となって**7月中旬に3日間にわたる現場調査が実施されました。



現場で活躍する県議会エンジニア（写真中央）

今回の下見調査では、県議会エンジニアが自主的に調査スケジュールの調整を行っただけではありません。

小さいけれども大きな一歩となる事例がありました。 それは「調査実施時の昼食代の自己負担」です。昨年のパイロットプロジェクトの現場調査やフィーダー道路工事の現場調査では、「工事現場では昼食の入手が困難」ということを理由に、日帰り出張の手当てとして本プロジェクトから昼食代(6,000 Le/人≒120円)を支出していました。しかし、今回の現場調査では本プロジェクトからの昼食代の支出はなく、「**県議会側で工面する**」ことになりました。

現場調査に参加したのは数名であり、昼食代の合計としては大きな金額にはならないのですが、なにからなまでにまでプロジェクトに依存する体質が強かった当初の県議会職員の体質も徐々に変化しています。昼食代を自ら工面し自主的に現場調査を行ったことに、大きな意味があると思います。

フィーダー道路担当の宿谷専門家の根気強い地道な助言・指導の成果です。この”思い”を大切に、引き続き県議会への技術移転が行われることを願います。

吉野専門家（業務調整/研修計画/村落開発）

3.2 愛すべき 名物広報官

カウンターパート機関である地方自治地域開発省には、今や一部関係者の間では名物になっている広報官ジョナサン氏があります。

彼の現場出動の必需品はデジタルカメラとインタビューを録音するレコーダー、そして青いキャップです（一連の右写真をご覧ください）。

ジョナサン氏は、本プロジェクトで節目になる活動があるときや日本やガーナから来訪者があるときには必ず我々に同行し、精力的に取材してくれます。

現場に到着すると何かにとり付かれたように、精力的なインタビューが始まります。彼のプロ魂とでも言いましょうか、その積極的な姿勢は見ていて頼もしい限りです。

現場から戻ったら、黙々とレコーダーを再生しながら、記事を書き上げ全国紙に掲載してくれます。本プロジェクトの力強い広報サポーターです。

7月15日にポートロコ県でフィーダー道路改修工事の竣工式が行われましたが、こんなエピソードがありました。

ジョナサンはいつもどおり張り切って竣工式に同行する予定でした。前日の昼ごろ、首都フリータウンからポートロコ県に向かう途中で彼の自宅があります。そこで彼をピックアップする約束をしていました。ところが、私を含め同乗者一同、彼をピックアップするのをすっかり忘れていました。

その日の夕方になって「日本人3人が車に乗っているのを見たぞ！」といつものがみがみ声のジョナサンから電話がありました。「ごめん！完全に忘れてた。どうしようか。」とたずねたころ、われわれは既に首都から100km離れたポートロコ県の事務所にいました。彼は怒るわけでもなく、「これから急いで長距離バスでポートロコに向かうよ！」といつものがみがみ声で話してくれました。

その後、彼は無事ポートロコ県にたどり着き、一緒に夕食をとることが出来ました。シエラ料理で人気の高い「ブラックペッパーミートスープ」を口にした彼はご満悦でした。

おいしいスープのおかげでしょうか、翌日の取材はいつも以上に精力的でした。式典の当日も、おいしい食事が振舞われ、彼はまたまたご満悦でした。



道路の竣工式は副大臣、地元有力者らが出席し、盛大に行われました。彼の書いた記事は全国紙に掲載され、本プロジェクトの活動が広く伝えられました。

その後、私は不覚にもシエラ赴任以来はじめて発熱したのですが、それを知ったジョナサン氏から翌朝早く電話がありました。「具合はどうだ？元気か？熱はあるか？、、、」といったものがみみ声で、質問の連発です。まるで取材を受けているようでした。おかげで熱は下がりましたが、彼のテンションが下がることはなさそうです。

愛すべき広報官です。

(平林リーダー)



一面に掲載された本プロジェクト記事。ジョナサン氏が取材しました。

ニュース 4 : プロジェクトの進捗

2011 年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
県・村落開発ハンドブックの草案	2011 年 5 月までに目次案を作成。 2011 年 6 月からハンドブックの草案作業を行う。	目次案作成。草案を開始。
モデルワードプロジェクト	カンビア県 4 件、ポートルコ県 2 件 (社会・経済基盤整備) のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。	モデルワードプロジェクト詳細実施要領のとりまとめ作業中。
パイロットプロジェクト：フィーダー道路・カルバート改修工事	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ 1 第 1 ターム (2011 年 5 月末まで) カンビア県：フィーダー道路計 17Km, カルバート 32 箇所 ポートルコ県：フィーダー道路 12.7Km, カルバート 7 箇所 主な工事：フェーズ 1 第 2 ターム (2012 年 5 月末まで)	課題の抽出とまとめ。次タームの道路計画の準備を進める。 工事進捗：カンビア県 Lot1 と Lot2、ポートルコ県の工事完了。 カンビア県 Lot3 の工事实施中。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	研修計画案とりまとめ。

4.1 村落開発モデル構築・モデルワードプロジェクト準備

モデルワードプロジェクトでは、シエラレオネの地方行政と住民代表グループが協働し、よりよい村落開発の成功事例と教訓をまとめる目的で、カンビア県とポートルコ県の 2 県で行います。両県議会は村落

開発の要となる地方行政機関ですが、中央各省庁の直轄下にある各事務所と協力しつつ、住民の声も十分考慮して地方行政を進めるといふ調整機能が期待されています。

そのカンビア県は人口 30 万人、ポートルコ県は人口 50 万人とされています。独断と偏見を恐れずに敢えて言えば、シエラレオネの県の規模は日本の市程度の規模でしょうか。日本の町に比べれば大きいですし、都道府県に比べれば小さい、といった規模です。

しかしながら、日本の市レベルの行政機関に比べ配置されている人員の数は随分少なく、一人の職員が複数の職務を担当し、少ない人員で業務を回すようにしています。



ポートルコ県での県議会職員会議の様子

一方、シエラレオネでは欧米式に「〇〇担当官」と、個別に職能が明確に定められています。経歴や研修も専門分野に特化しています。ただ、村落開発の主要なカウンターパートである県議会の開発計画担当官に至っては、あらゆる国際機関の援助事業の窓口となっているためか業務が集中しています。

モデルワードプロジェクトでは、住民の声・要望を汲み取る仕組みとして、村レベルの組織作りからチャレンジすることになります。しかし、県議会の人員構成を考えると個々の村にアプローチするのはかなり無理があります。

そこで、県議会議員の選挙区として数十の村から構成される「ワード」にあるワード委員会のメンバーをトレーナーとして育成し、個々の村の住民に指導してもらうことになります。当初、「ほぼ無報酬に近いワード委員会のメンバーが動くのか？」といった見方もありましたが、パイロットプロジェクト実施に見られた彼らの善意とボランティア精神を信じて、村レベルの組織作りから取り組むことになりました。

少ない県議会の人員で上記の取り組みを行うには、県議会職員が横の連携を阻む「専門分野」という壁を打ち払って、「この県を良くしたい。そのためには村から強化する必要がある。金銭的な見返りはないが、地元の開発のために尽力しましょう。」と伝えられる仕事への姿勢と情熱が各職員に必要です。

ようやく、モデルワードプロジェクト詳細実施要領案が固まりつつあり、7月末には説明会と県行政関係者が集まるステアリング・コミティー会議も予定されています。両県議会を巻き込んで、次の段階の事業が始まりますが、彼らの熱意を高める機会になると期待されています。カンビア県議会、ポートルコ県議会へのご声援、お願いします！

佐藤専門家（県・村落開発）

4.2 研修計画 —Microsoft Word 2007 講師育成研修の 実施—

7月21日(木)、Microsoft Word 2007 の研修がポートロコ県議会にて実施されました。今回の研修は、県議会内での講師育成研修 (TOT) として実施されました。

利用したテキストは、以前ご報告しました「Microsoft Word 2007 Basic Course」です。テキスト完成から今回の研修実施まで実に半年以上がかかってしまったのですが、その間本プロジェクトでは研修講師育成を進めました。

7月上旬までに講師候補者が同テキストの内容をほぼ全て習得し、テキストの全工程を 20 分以内で完了できるレベルにまでなったため、今回の研修実施が可能となりました。



自信に満ちた顔で研修を行う新任講師のハジャさん (写真右奥)

今回の研修で講師を務めたのは、本プロジェクトが契約するコンサルタントのハジャさん (Assistant Program Officer) です。講師としての育成を始めたばかりの頃の彼女は、Word の操作方法が良く分からず、不安な面持ちでしたが、今回の研修実施時にはすっかり一人前の講師として、自信に満ち溢れた顔と声で研修受講者達へ、Word の使い方と、研修を実施するにあたっての注意点を説明しておりました。

今後は彼女と両県議会の人事官が中心となって、同研修を数回開催する予定です。また、当プロジェクトでは北部州を対象としているため、カンビア県、ポートロコ県だけではなく、北部州の他 3 県にある県議会職員へも研修を実施してゆくことが可能になりました。

研修の実施については外部委託も一つの方法論ですが、自組織内に研修実施ができる人材を育成することも重要です。本プロジェクトでは引き続き、内部での人材育成と外部委託のバランスを取りつつ、効率的な研修実施を模索してゆきます。

吉野専門家 (業務調整/研修計画/村落開発)

4.3 フィーダー道路改修工事 —竣工式にて維持管理の大切さを伝える—

2011年1月に開始したポートロコ県の全長 12.7km のフィーダー道路改修工事及びカルバート工事が無事完了し、7月15日に竣工式・引渡し式がとり行われました。

これも、県議会関係者、県の道路事務所関係者、地元住民の尽力、そして彼らを支援したプロジェクト専門家の助言・指導の賜物です。

今回のフィーダー道路改修工事では、工事業者選定から契約書の様式、支払いなど、出来る限りシエラレオネの調達方式に従って支援を行いました。完工までの過程で、様々な課



地方自治地域開発省副大臣によるテープカット (写真中央)

題に取り組み、成果をまとめ、より効率的で効果的な今後の行政による工事支援につなげていく狙いがあります。

今回出席した竣工式・引渡し式では、本省からは副大臣が出席し、国会議員や県議会関係者、地元有力者、住民が集まり道路完成を祝いました。道路整備が地元にも与えるインパクトの大きさを実感したときでもありました。



カルバート工事：工事前（写真左）、工事中（写真中央）、完成（写真右）

「整備された道路は地元の経済活動を活性化し、そして学校やクリニックなどの公共施設へのアクセスを容易にしてくれます。3月に日本を襲った巨大地震後も継続して事業を支援していただき、心から感謝申し上げます。」との地元国会議員会の謝辞に、出席者一同から大きな拍手がありました。

今回の工事では行政の尽力をたたえ、これからは行政と地元住民の協働によって、自分たちの道路を維持管理していくことになります。

（平林リーダー）

コラム1 シェラのチカラ：只今トンネル建設中！？ —吉野専門家—

2010年4月末。昨年シェラレオネに着任したときは、フリータウン～カンビア間の約180kmの移動に、雨季には5～6時間かかり、ポートルコ～カンビア間の約60kmの移動は1.5～2時間ほどかかっていました。現在2011年6月下旬。この一年でカンビア～フリータウンまでの道路整備が進み、雨季のに入った今の時期でも、フリータウン～カンビア間は3～4時間、ポートルコ～カンビア間は40分～50分程度と大幅に改善されました。



巨大な銀色の筒。本当にトンネルか？

ポートルコからフリータウンへ向かう道の途中がまだ一部工事中なのですが、昨日工事現場を横切ると、なにやら蛇腹状の大きな銀色の構造物が設置されていました。

プロジェクト車両の運転手に「あの銀色のどデカイ物はなんだ？」と尋ねてみると、「あれはトンネルなんだ。あの中を車が通るんだ。すごいだろ。」ととても自慢げに教えてくれました。

この銀色の構造物、明らかに道路の下に位置するように配置されており、かつ道路に対して45°位の角度で配置されています。「本当にこれが車両用のトンネルなの？」と思いつつ、「それはすごいね。完成したらトンネルを利用してみよう！」と運転手には返答しておきました。

今の状況だと、この部分の工事が完了するにはあと数ヶ月はかかりそうです。この銀色の物体、本当に車両通行用のトンネルなのでしょう。はたまた、排水用の巨大パイプなのでしょう。どちらにせよ、最終的にはこの巨大な筒の上に道路が作られることになると思うのですが、強度は大丈夫なのでしょう。

数ヶ月後の完成時に全てが明らかになります。

コラム2 シェラのチカラ：美味しい料理に魚の骨在り —佐藤専門家—

おそらく、本プロジェクト専門家の中で辛いものが一番苦手なのは私でしょう。でも、一番地元の食事を美味しくそうに重宝がって食べているのも私でしょう。しかも、私はカンビア県都を流れる川と海水の混じった汽水域から獲れる魚が大好きです。今晚のメニューは、魚フライの甘辛ソース煮です。にこやかな歓談で他3人の専門家と楽しい晚餐が始まりました。それが、あんな悪夢になろうとは、誰が想像したでしょう？

日本では「魚料理には絶対に箸」を貫く私も、他の専門家が自然にナイフとフォークを使っているのを見て、そのまま食事を始めました。アジか太刀魚のように、平べったく、硬い骨の魚でしたので、フォークでは非常に食べ難いのです。しかし、ソースが辛いのでご飯と混ぜて食べる作戦を私は敢行しました。うん、おいしいです。

「あれ？」と一瞬思ったのですが、いつもの小さな骨と同じように噛み砕いてしまおうと、食べ続けたのですが、なぜか口の中で混ざることなく喉に流れ込んだ一本の骨があったようです。「うーん、痛いなあ」と思いつつ、さらに食べ物を飲み込めば抜け落ちて胃に流れ込むだろうと思ったのが間違いでした。喉の一番奥の右側に魚の小骨が突き刺さったようです。



看護婦さんとのどの中を検査する器具

顔をしかめて洗面所に駆け込み、喉の奥の喉仏のさらに奥に指を突っ込みました。骨です。かすかですが、指先に弾くとよく跳ねる小骨が喉に突き刺さっているのが分かります。ピンセットを借りましたが、喉の奥まで入りませんし、鏡で見ることもできません。魚の骨で騒ぐのは恥ずかしかったので、その晩は寝ることにしました。

翌朝、残念ながら小骨はまだ喉に刺さっていました。痛みは増しています。喉に刺さった骨が抜けない場合、骨が腐って消えてなくなるか、そうでなければ喉が炎症を起こして膿が溜まるので喉を切開手術しなくてはならない、と聞いたことありました。そこで、朝からカンビア県で一番大きな病院に行くことにしました。待つこと30分から1時間後でしょうか、医師のインターンを称する若いお医者さんに診てもらうことになりました。

診察室には、明かりがありません。「どうやって、喉の奥を見るんだろう？」と思っていたら、医師の最新のiPhoneが取り出され、フラッシュライトをつけて喉を見始めました。「見えないなあ」とぼやく若いお医者さんに、私は自分の携帯電話を差出しました。携帯2個の明かりでも足りないようです。彼は、ついに「よし、器具を使おう」と言い、部屋を出ていきました。私は、喉頭鏡とか鼻咽腔ファイバーのような日本でもおなじみの伝統的な器具を使うんだろうな、と気楽な気持ちで待っていましたが、結局さらに30分ほど処置室が空くのを待つことになりました。



病院の処置室

処置室には看護師さんのバックや注射針が置かれています。冷たいベットが目に入りました。どんな器具を持って来るんだろうと心待ちにしていたところ、ウーピー・ゴールドバーグ似の看護師さんが手にピッケルに似た器具を持って戻ってきました。くちばしの本体は舌を押し下げられるようにL字型のまま縦にカーブしています。口の中に入れてもらいましたが、嘔吐感があったのでジタバタしてしまったところ、「麻酔をかけることにしよう」ということになりました。更に待つこと、5分。若い医師、例の看護師さん、助手にしては力のありそうな大男が入ってきました。看護師さんが注射針を取り出しました。「あれっ、アルコール消毒は？」と問いかける間もなく、左腕の手首と肘の真ん中辺りにすうーっと注射針が吸い込まれていきました。黄色い液体が押し込まれていきます。痛いなあ、と思っていると注射器は抜かれることなく、腕に刺さっています。ここで、私の記憶は途切れます。

遠い遠いかすかな意識の中で、自分という存在が消えていきます。「手術前にプロジェクリーダーと話し合った重要事項について、他の専門家に知らせなければ」と思い出した直後、深い眠りから覚めます。幻覚とも夢ともつかぬぼんやりとした記憶だけが残ります。

2-3時間が経ち麻酔が完全に切れる頃、あの若いお医者さんと看護師さんがやってきました。全身麻酔で喉にライトを入れて小骨を見つけたこと、手動の吸引ポンプみたいなもので骨を取り出し胃の方へ落とし込んだこと、などを話してくれました。「小さな魚の骨に大手術だったわよ」と説明してくれた看護師と若い医師は、喉の炎症を防ぐ薬の処方箋を出してくれました。

この病院には、絶対に医療器具の支援と建物の修繕が必要と思いつつ、少ない器具でもきちんと処置してくれたシエラレオネの医療スタッフの精神に乾杯したい気分です。そんなシエラの医療スタッフにシエラの力を垣間見た気がしました。シエラの力ここにあり、万歳！

コラム：「ごっつあんです！ シエラレオネ 第14話」－洗練された料理が楽しめるお店！－

フリータウンの市内から丘の上を上がり、昔の鉄道駅「Hill station」を通り、さらに丘をあがると、Country Lodge というシエラレオネの最高級ホテルがあります。海外からの要人がよく利用しているホテルです。



Country Lodge

Country Lodge の中にある Eden Restaurant からは、下方に広がる海を一望でき、吹き上げる心地よい風を受けながら、洗練された食事を楽しむことができます。

外食する場所が限られているフリータウンでは、おいしい食事を楽しめる貴重なレストランです。店員さんの愛想もよく、週末は特に外国人でにぎわいます。



思わず歓声を上げる、ペッパーステーキ

このお店のペッパーステーキは一度試す価値ありです。ハッシュドポテトのフライとステーキがサンドイッチのように重なっています。

このメニューを初めてみた方は「わぁー！」と声を上げること間違いありません。「ステーキの五重塔！」と思うほどのボリューム感です。この五重塔においしいペッパーソースがたっぷりかかっています。お肉も柔らかくておいしいですよ。

次はスパゲティです。このお店には、「半盛り」と「普通盛り」の2種類があります。「スパゲティ食べたいな〜、でも他のものも食べたいな〜。」という方にはお勧めの「半盛り」スパゲティ。もちろん、食いしん坊さんには普通盛りがお勧めです。



具沢山のシーフードスパゲティ（写真左）と洗練されたミートソーススパゲティ（写真右）

シーフードがたっぷり入ったシーフードスパゲティ、洗練されたミートソースは絶品です。最後はシエラレオ近海で獲れるバラクーダのステーキ。どれも他のお店よりもきめの細かさを感じる一品です。「また明日から張り切っていこう！」というエネルギーをもらえるお店です。



バラクーダステーキ

お店：Eden Restaurant, Country Lodge。場所：Hill Station, Freetown.

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。素晴らしい眺めと、心地よい風が、洗練された料理をさらに引き立てます。

(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートロコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月(5年間)

対象地域：カンビア県(25ワード：人口約30万人)、ポートロコ県(7ワード：人口約9万人)

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートロコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整/研修計画/村落開発専門家、佐藤 県・村落開発専門家、田中業務調整(2011年7月実績)